

日時：令和８年９月４日（金）午前１０時～

場所：結とぴあ３０５・３０６号室

１ 開会

２ 委員長あいさつ

３ 議事

（１）越前おおの産業戦略（仮称）の素案について

事務局：資料に基づき説明

委員：３１ページの重点施策の事業承継について、大野商工会議所では事業承継・引継ぎ支援センターや金融機関と連携し、事業承継支援を進めている。アンケートでも、事業承継に伴う店舗改装や設備導入への支援を求める意見が多く、実際の相談でも同様のニーズがある。

また、事業承継時の設備導入等を支援する県の魅力向上補助金では、市内事業者が４件採択されており、県内全体約３０件の中でも高い実績となっている。黒字廃業が課題となる中、事業承継を重点的に推進してほしい。あわせて、金融機関や市に相談があった際には、商工会議所とも連携しながら支援につなげてほしい。

９ページの企業数、事業所数及び従業者数のグラフについては、令和８年経済センサス活動調査や令和６年経済センサス基礎調査等の結果を確認し、可能であれば最新の数値を反映してほしい。

事務局：ＲＥＳＡＳやｅ－Ｓｔａｔを確認したが、検索が十分でなかった可能性がある。令和６年のデータが取得できる場合は、最新データを反映し、直近の状況が分かるよう修正する。令和８年経済センサス活動調査については、公表時期を確認する。

委員：３１ページの城下町エリアにおける空き店舗等の利活用について、昨年度は店舗形成補助の活用実績が３件あったが、今年度はまだ実績がない。現行制度は小売業や一般飲食店を対象とし、中心市街地区域内での出店や営業時間に関する要件があるため、夜間営業を中心とする飲食店は活用しにくい状況である。重点施策として位置付けるのであれば、制度の見直しや新たな支援策について検討しているのか。

事務局：令和９年度から、補助制度については名称を含めた見直しを検討している。具体的な内容については、制度運用の実績や課題、関係者の意見を踏まえながら、商工会議所と協議し、制度設計を進めていきたい。

委員：中部縦貫自動車道の県内全線開通への期待は大きいですが、誘客効果を一時的なものに終わらせず、継続的な来訪につなげることが重要である。観光施策は短期間で成果が現れるものではないため、中長期的な視点を持って取り組んでほしい。

また、北陸新幹線開業により金沢を中心とした人の流れは増えているものの、福井県内への立ち寄りはまだ十分ではない。中部縦貫自動車道の開通後も、大野市が通過点とならないよう、継続的な誘客に向けた取組が必要である。

中部縦貫自動車道の開通を見据え、市内で大規模な宿泊施設の整備や開業の動きがあるのか伺いたい。

観光の重点施策に恐竜との連携・周遊が盛り込まれていることを評価する。観光客は行政区域を意識せずに移動することから、勝山市との連携による周遊促進や、永平寺、一乗谷、恐竜関連施設、大野市などを結ぶ二次交通の充実を含め、広域連携の視点で観光施策を進めてほしい。

事務局：宿泊施設については、道の駅「越前おおの荒島の郷」に隣接するホテル整備計画があるが、コロナ禍や国際情勢の変化等を踏まえ、事業者が計画を精査している状況である。また、市内では宿泊施設に関する相談が増えているものの、小規模な民泊施設が中心となっている。20人程度が宿泊できる規模の旅館の廃業が続いており、相対的には宿泊可能人数は減少している。

インバウンドについては今回の重点施策には位置付けていない。誘客には広域的な視点が必要であり、まずは福井県全体での誘客拡大を図ることが重要であるため、県と連携しながら取り組んでいきたい。なお、本戦略は今後5年間の重点施策を示すものであり、それ以外の施策についても総合計画等に基づき進めていく。

恐竜ブランドについては、県と連携し、大野市を含めたブランドとして発信を進めている。勝山市とは異なる地層や化石資源の特徴を生かしたPRやイベントを実施しているほか、恐竜博物館の企画展と連携した取組も進めている。

食は大野市の重要な観光資源である一方、観光客アンケートでは飲食店や買物の場の不足を指摘する意見もあることから、食の魅力向上や受入環境の充実に向けた取組を進めていきたい。

委員：恐竜博物館来館者の中には、あわら温泉に宿泊する旅行者も多いと聞いている。既に宿泊地が決まっている観光客を大野市へ誘導することは容易ではないため、宿泊施設の整備や、食を前面に打ち出した誘客施策が必要ではないか。

また、中部縦貫自動車道の利用者については、道の駅「越前おおの荒島の郷」から再び荒島ICを利用すると、そのまま勝山ICを経由して恐竜博物館へ向かう流れが想定される。城下町や商業施設等へ誘導し、市内を周遊してもらうためのルートづくりについても検討してほしい。

委員：戦略全体としては十分に整理されており、内容も充実していると感じる。

一方で、飲食店が少ないという課題については、観光客が集中する週末や祝日に不足感が生じている面があると思われる。事業者にとっては平日の安定した売上も必要であり、週末需要だけを前提に店舗を増やすことは難しい。

また、宿泊施設の充実や広域連携は重要な課題であり、戦略の中でももう少し位置付けてもよいのではないか。

委員：飲食店や宿泊施設については、需要の平準化が図られなければ事業者の新規参入や施設整備は難しい。宿泊施設の充実は以前からの課題であり、引き続き重点的に取り組む必要がある。

戦略素案はよく整理されており、観光、商工業、働く環境の3分野を重点的に推進する内容となっている。戦略策定後は、それぞれの分野で具体的な施策も併せて発信することが重要である。

観光分野では、高山市や郡上市との広域連携について、中部縦貫自動車道の開通を契機とした新たな展開の可能性を検討してほしい。

また、恐竜については、より具体的で分かりやすい情報発信が必要であり、大野市の恐竜の特色を発信する拠点整備も検討してはどうか。

商工業分野では、事業承継に加え、市内で新たな産業や事業を生み出す仕組みづくりも重要である。内発型産業の創出につながる取組についても検討してほしい。

委員：戦略の内容としては十分に整理されていると考える。重要なのは、今後この戦略をどのような具体的施策に落とし込んでいくかである。

大野市は各分野に幅広く取り組む傾向があるが、限られた予算の中では、特定の事業者や事業分野、エリアなどに重点的に投資し、成果を生み出す視点も必要ではないか。重点分野で成果を創出し、その効果を他分野へ波及させることも重要であるとする。

恐竜については、ツアー造成など、より踏み込んだ取組も検討してはどうか。また、中京圏から恐竜博物館へ向かう場合、勝山ＩＣより大野ＩＣの方が便利であることをＰＲし、大野市への誘客につなげる視点も必要ではないか。

成果指標である「道の駅産直の会商品売上高」について、産直の会は生産者育成やブランド化など、本来行政が担う部分も含めて大きな役割を果たしていると感じる。成果指標として掲げるのであれば、市もより深く関わり、販売データ等を把握しながら施策へ生かすことが重要ではないか。また、市と両道の駅が連携し、小規模農家や商業者の育成につなげる取組も考えられる。

また、九頭竜ダムを活用した地域活性化について国土交通省とも意見交換を行っている。九頭竜ダムは来訪者の多い有力な観光資源であり、来訪者を市内へ誘導するための特徴的な取組について、施策への反映を検討してほしい。

委員：観光の重点施策である恐竜ブランドについて、恐竜博物館から市内への周遊促進を図るため、特定の拠点を設定し、送迎バスの運行などを検討しているのか。

事務局：マイカー利用の方が多いことから恐竜博物館と市内を結ぶシャトルバスの運行は考えていない。まずは恐竜博物館来館者に対し、大野市の魅力を伝える情報発信に注力していきたい。

ＳＮＳ広告では恐竜関連コンテンツの反応が非常に良く、恐竜博物館と大野市の恐竜情報を組み合わせた情報発信では、多くの閲覧やアクセスがあった。今後も中京圏など対象を絞った情報発信を進めていきたい。

先ほど恐竜の拠点の話があったが、和泉地区には化石を展示している資料館「ガ・オーノ」や化石発掘を体験できる「HOROSSA！」があり、国内最大級の発掘体験施設として来場者も増加している。「HOROSSA！」にしか出ない化石があるということが強みだと思う。「HOROSSA！」でしか出ない化石や本物の化石に触れられる体験は大野市独自の魅力であり、こうした資源を生かして和泉エリア、六呂師エリア、まちなかの連携による周遊促進を図っていきたい。

道の駅来訪者のまちなかへの誘導に取り組んできたが、来訪者はあらかじめ目的地を決めている場合が多く、その場で行動を変えてもらうことは容易ではないと感じている。

そのため、大野市の多様な観光資源を発信し、再訪につなげる取組を重視していきたい。

委員：観光分野では、２０代から４０代のファミリー層を主要ターゲットとしているが、同世

代の視点から見ると、県外の知人等から「大野には何があるのか」と尋ねられた際に、大野市を目的地として勧められるだけの魅力や認知度は、現時点ではまだ十分とは言えないと感じる。

委員：「戦略」とは選択と集中であり、重点分野に資源を集中させるべきとの考え方で進めてきた。単に施策を並べるだけでは戦略とは言えない。

そのため、本戦略では観光業、商工業、働く環境の３分野に重点を置き、相互に連携させる構成としている。観光業では、城下町、恐竜、星空、道の駅を核とした周遊・滞在型観光の推進、中部縦貫自動車道の開通を見据えたターゲット誘客、受入環境の充実に重点を置いている。

商工業では、城下町の商業空間の活性化と事業承継を柱としている。事業承継については、アンケート結果からも全国以上に厳しい状況がうかがえ、事業者の減少は地域経済の担い手や雇用の減少につながることから、重点的に取り組む必要がある。また、「事業承継のまち」として特色を打ち出すことで、新たな事業の担い手や移住者の呼び込みにもつながるのではないかと。

今年度の中小企業診断士協会のシンポジウムでは事業承継をテーマとしており、第三者承継やM&Aの事例紹介も予定されている。こうした機会を活用し、大野市が事業承継に積極的に取り組む自治体として発信することで、先進地としての認知向上につなげてはどうか。

働く環境については、選ばれる職場環境の整備に加え、大野市の暮らしやすさを分かりやすく発信していくことも重要である。

観光分野では広域的な視点が必要であり、高山市など周辺地域からの誘客についても検討していくべきである。

また、恐竜については、和泉地区の施設を福井県立恐竜博物館のサテライト的な拠点として位置付けることも一案である。大野市単独で発信するよりも、「恐竜王国福井」という県全体のブランドを活用することで誘客効果が期待できる。県のブランド力を生かしながら、大野市ならではの特色を発信していくことが重要ではないかと。

事務局：恐竜博物館は研究機関としての性格が強く、連携には難しい面もあるが、最近では県の誘客担当課とは出向イベントで連携しPRを行っている。今後連携を強め大野を含む奥越エリアで恐竜ブランドの発信に取り組んでいきたい。

委員：福井新聞社と県立大学が設立した恐竜総研のように、恐竜を活用した地域活性化に取り組む組織もある。こうした組織との連携を進めることで、恐竜博物館との連携強化につながる可能性があるのではないかと。

委員：恐竜博物館や「HOROSSA!」との連携も重要であるが、その来訪者をいかに大野市のまちなかへ誘導し、周遊につなげるかが重要である。恐竜博物館と「HOROSSA!」の連携に加え、まちなかへの誘導や周遊促進についても重点施策として検討してほしい。

委員：素案は十分に整理されており、今後は具体的な施策の検討が重要である。戦略の策定に合わせ、観光、商工業、働く環境の各分野で具体的な施策を打ち出し、実行していく必要がある。

また、「越前おおの産業戦略」として、大野市ならではの特色ある施策を展開すること

が重要である。事業承継については、県事業承継・引継ぎ支援センター等との連携を強化しながら、大野市独自の取組を進めてほしい。

さらに、地域産業の付加価値向上も重要な課題である。難しい課題ではあるが、今後は付加価値を高めるための具体的な施策についても検討を進めてほしい。

事務局：本戦略は、今後5年間の方向性を示す重要な戦略である。本日は委員個人としての意見をいただいたが、今後は所属団体の意見も伺いながら検討を進めていきたい。

本日の素案については所属団体の関係者にも共有いただき、意見があれば提出をお願いしたい。今月下旬に専門部会の開催を予定しているため、2週間程度を目安に意見をいただけるとありがたい。引き続き協力をお願いする。

また、現在の戦略名は「越前おおの産業戦略（仮称）」としているが、「産業」という名称に対して、戦略では重点分野を絞った内容となっていることから、名称についても改めて検討したいと考えている。

例えば、「越前おおの地域経済戦略」とし、「道がつながり、地域が稼ぐ」などのサブタイトルを付ける案や、「越前おおの稼ぐ地域づくり戦略」といった案も考えられる。戦略の内容だけでなく、タイトルについても意見をいただきたい。

委員：戦略をどのような具体的施策に落とし込んでいくかが最も重要である。今年度中に戦略を策定するため、来年度には新たな施策を打ち出し、事業を進めていきたいと考えている。次回の会議では具体的な施策案を示し、意見をいただきたい。

本戦略では、中部縦貫自動車道を活用した誘客と、中京圏等への販路拡大による地域の稼ぐ力の向上を重視している。どこから人を呼び込み、どこで消費してもらうか、そのために何が不足しているのか、あるいは既存の資源をどう磨き上げるのかという視点で、食や土産品などの魅力向上を位置付けている。

また、事業承継については、担い手や後継者の不足に加え、人口減少に伴う事業者数の減少も課題となっている。地域を支える人材や事業の担い手をどのように確保・育成していくかという視点も、本戦略の重要な柱としている。

本戦略は、令和11年春の中部縦貫自動車道県内全線開通までの間に、重点的に取り組むべき方向性を示したものである。今後は、各分野で何を重点的に打ち出すのかという視点から、引き続き意見をいただきながら、具体的な事業につなげていきたい。

4 その他

5 閉会